

防災・減災の輪

かがわ自主ぼう連絡協議会
会報 第 206 号 (2024. 4. 1)
事務局 川西地区自主防災会

災害に強いまちづくり

古高松地区自主防災連合会 副会長

新田町地区自主防災会 会長

西澤 一弘

元旦から能登半島大地震が発災し、多難な一年のスタートになりました。

未だ、避難所生活を余儀なくされている方も沢山おられる状況です。一日でも早く普通の生活に戻れますよう念じております。



まずは、私が暮らしている新田町の概要をお伝えしようと思います。

屋島の南に位置し国立病院機構高松医療センターや久米池がある地域と言えば分かり易いでしょうか？



世帯数約 1,805 世帯、人口約 5,119 人
(国勢調査 2020 年)の町です。新田街道(県道 30 号線)の東側は、久本古墳等古くから人々が暮らしていたようです。

地名に公文(荘園)もありますので、農作物も古くから作られていたようです。ただ、街道の西側(新川)に至るまでの地区は、堀江という地名が今も残っているように水に
淒く縁がある地域です。住居跡の古いものでも室町時代ですので水にかなり悩まされ
人が住めるようになったのはまだ新しいと
思われます。平成 16 年の台風 16 号によ
る高潮被害が出たときは、街道西側の田畑
は全て水没していました。



今は、その田畑に戸建て住居が沢山建っていますが、水に対する備えは十分とは言え
ない状況です。その上問題なのは、黒い絨毯のように増え続けている太陽光発電施設
です。私の住んでいる地区の山頂付近にも中規模の太陽光発電施設がありますが、な
んと日当たりを良くするために南側斜面の樹々が全伐採されました。何十年いや何百
年かもしれない命を繋いできた樹々がです。勿論、これで山の保水力は極端に落ちた
と思いますし、線状降水帯がいつ発生しても不思議でない時代に危険な状態を人為的



に創り出している訳です。

熱海の痛ましい土石流もそうですが、規制
が追いついていない現状です。

今回の能登半島地震でも、破損した太陽光パネルが禍して救助活動に遅れがでたとのニュースがありました。破損しても発電している可能性がありますので、感電の危険がある訳ですし、火災が起されば有害物質(鉛、ヒ素、セレン、カドミウム、アンチモン)が発生する可能性もあります。このままでは自然破壊、環境破壊が酷くなる一方です。早く法整備して、世界に誇れる釧路湿原や阿蘇のカルデラを保存できるよう願うのみです。



ドローンで上空から見た釧路湿原周縁部に稼働中の太陽光発電施設と大規模な計画の予定地（右上）。後方には雌阿寒岳の山並みが見える＝北海道釧路市で 2022 年 12 月 16 日、市民提供



阿蘇外輪山の元牧野に開発されたメガソーラー
3 月中旬、西日本新聞

しかも、事業終了後の太陽光パネルの撤去積立金が少なくとも災害リスクがある斜面に立地する全国 1600 施設(500 キロワット以上)で不足する恐れが浮上しています。各事業者は再エネ特措法に従い廃棄費を積み立てるが、安全対策費などが膨らみ 3 割程度上振れする可能性が高くなります。放置や不法投棄につながる可能性もあり、適正処理に向けた仕組みづくりが不可欠です。

先日もニュースで、違法太陽光発電施設 149 件のうち 2 割がまだ是正されず指導後 9 年経過しているとのこと。認可制度の見直しも急務と感じられます。

このままですと、自然災害に輪をかけて人的災害が増える一方です。

これを今お読みになっている方は、防災に関係している方だと存じますのでお願いがあります。一時避難所や中長期避難所に避難する場合の経路に太陽光発電施設はありますか？今一度確認をお願いいたします。命を守るために、より安全な避難経路を確保してください。できれば、選択肢は複数あるのが心強いのでご検討ください。

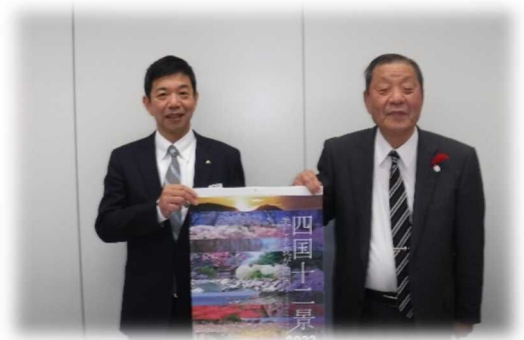
最後に、「災害は忘れた頃にやってくる」

防災用品の備えと、心構えをお忘れなく・・・

離任のご挨拶

元 香川県危機管理総局長 田中 一裕

この度、役職定年により2年間お世話になった危機管理総局を離れることとなりました。県庁での勤務の中で危機管理総局は初めてでしたが、岩崎会長をはじめ、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方に、様々な場面でご支援・ご協力をいただき、心よりお礼申し上げます。ありがとうございました。



この2年間を振り返ってみますと、本県では、大きな人的被害が発生するような災害が起きませんでした。全国をみると大規模な風水害や地震が発生し、特に、今年1月1日に発生した能登半島地震では、多くの尊い生命や財産が失われました。心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧と復興をお祈りいたします。

さて、本県においても、南海トラフ地震の発生確率が高まる中、どうしても「公助」には限界があり、「自助」「共助」の取組みを推進していくことは大変重要であります。特に、「共助」の要である県下の自主防災組織の活性化を図ることは、県としても大きな課題でしたが、コロナ禍においても避難所での感染症対策や防災訓練などが継続して実施できたことは、ひとえに、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様のおかげであると思います。

今後は、地域の防災活動に地元企業が参加することも重要であると考えており、防災訓練への参加や備蓄物資・資機材の提供などを働きかけてまいります。また、「自助」の取組を推進するため、令和6年度からは新たに、「かがわ県民防災意識向上プロジェクト事業」を実施することになりましたので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

結びに、かがわ自主ぼう連絡協議会の今後ますますのご発展と、会員皆様のご健勝ご多幸を祈念して、ご挨拶いたします。ありがとうございました。

元 香川県危機管理総局次長 藪木 泰伸

この度の人事異動で、危機管理総局を離れることとなりました。

かがわ自主ぼう連絡協議会の岩崎会長をはじめ皆様には、自主防災組織の結成や活性化をめざして、訓練を支援したり、アドバイザーを派遣したりする県の事業に御協力いただき、誠にありがとうございます。

私自身、防災行政に携わるのは、10年振りで2度目でしたが、かがわ自主ぼう連絡協議会の活動が進化しているのを見て、たいへん心強く感じました。

これも、全国の大きな災害での支援経験や、クローズアップされた課題を受け止めて活動されてきた成果であると思います。

令和6年元旦に発生した能登半島地震では、多くの建物が倒壊する中、道路が寸断されたことで救助がすぐには届かないというような状況が発生しました。防災においては、自助、共助、公助の連携により対応していくことが求められますが、すぐには、消防や自衛隊、警察などの救助や、行政からの物資が届かないことも想定して、自らの備えと地域の防災力を強化しておくことの大切さを身に染みて感じたところです。

私は、4月からは商工労働行政に携わることとなりますが、産業振興などを図っていくうえでも、災害や危機管理への備えという土台がしっかりできていてこそ、活動が継続できるものだとは強く感じております。また、事業者の有する人材や資機材を、地域の防災に活かしていくことができれば、さらに、地域の防災力が高まるのではないかと思います。

そのためには、皆様方の経験やノウハウは欠かすことのできないものですので、引き続き、御支援・御協力をお願いいたしますとともに、今後益々の御活躍をお祈り申し上げます。

元 香川県危機管理総局危機管理課 岡 洋樹

この度の人事異動により、令和３年度から３年間勤務した危機管理課を離れることとなりました。最初の２年間は、課長補佐として自主防災組織の活性化等の業務を担当させていただき、岩崎会長をはじめ、かがわ自主ぼう連絡協議会の皆様方には、大変お世話になりました。

元旦に発生した能登半島地震では、集落の孤立、木造家屋の倒壊、液状化、また避難所におけるトイレ問題など、多くの被害や課題が見られ、本県において、近い将来必ず発生することが予測される南海トラフ地震においても、同様の被害の発生が危惧されております。

そのような状況において、少しでも多くの人々の命を守るためには、共助の要である皆様方の、日頃からの訓練支援や、学校、福祉施設、民間事業者等との連携強化など、自主防災組織の活性化に向けた取組みの積み重ねが、必要不可欠であると確信しております。

これからも引き続き、本県の防災力強化に向け、ご支援、ご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後に、かがわ自主ぼう連絡協議会の益々のご発展と、皆様のご健勝、ご活躍を心からお祈り申し上げ、転任の挨拶といたします。ありがとうございました。

事務局だより

令和6年 4月

最近の活動から

(1) 年度末から年度始め、行事が手いっぱいの状態、そんな中、小学校、中学校の卒業式に参加しました。

昔とは、そんなに変化がございませんが、約2時間、若き日のことがよみがえり、精神的にリラックスすることが出来、又新たなエネルギー源が生まれてくるような気がしています。

要するに高校生のボランティア活動の発表もしくり、若い人達の空間に溶けこむことが大切な事でないかと思ひます。



(2) かがわ自主ぼうの総会を間近かにひかえ、6年度の主たる事業を選定して、その取組み概要を整理しておりますが、一番神経を使いそうなのが「自主防災組織」と「企業・団体」との連携協定の締結でないかと思ひています。

現役時代に技術屋のはしくれから法人営業活動を始めたと同じ状況です。私自身、地元丸亀市内の皆さんとはこん意にさせていただき、自主防災活動を始めとする地域活動にずいぶんご支援をいただいておりますが、これも平素から企業目線でのおつきあいの賜ものと思ひています。

総会開始前の時間(約2時間)を活用して、理事の皆さんと大いに議論を行ない、私自身活動のサポートをしっかり行ないたいと思ひています。

文責(岩崎)

編集後記

4月の防災減災の輪は、古高松地区自主防災連合会 副会長新田町地区自主防災会 会長 西澤様の原稿を掲載させていただきました。ありがとうございました。